藤香会だより

第３号
平成19年7月1日発行
発行者
藤香会事務局
092-541-8268
発行責任者
中島　敏行

福岡城

今年は築城四〇〇年です

副会長　中島　敏行

本年度、すでに藤香会が関わってきた活動の一、二を報告し、また今後、予定されている三つの記念事業についてお話しておきましょう。

先ず報告の一点目。四月八日、春爛漫のお釈迦さまの生誕の日、黒田家の菩提所崇福寺で画期的な〈花祭り音楽祭〉が催されました。有名な音楽家が多数出演とあって前売りのチケットはたちまち完売の由。境内は黒田家墓所も含めて特別公開。日ごろ、閑静な道場もジャズ・クラシック・邦楽と、災害復興の音色が響き、福岡の基礎づくりをされた歴代の藩主方も、定めしビックリ仰天されたことでしょう。黒田家第十六代の長高様も日帰り参加をされました。

二点目は、先般、吉田宏福岡市長が東京の黒田家を表敬訪問されたことです。上京に先立ち、当副会長にお会いいただきましたので、藤香会の沿革や現下の活動状況などを申し上げ、福岡城址の整備・天守閣の築造のことなどの要望もいたしました。

さて、今年のイベント・事業関連ですが、まず、一つ目が秋の十月二十日の光雲神社百年祭です。この祭礼に伴うイベントは母里太兵衛の子孫・母里忠一氏を委員長として目下計画中です。

二つ目は、この百年祭の翌日十月二十一日、筑前小石原中野焼・黒田光之公開窯三二五年祭が予定されています。この記念祭は当会の会員である太田和孝氏が準備に当たっておられます。

三つ目は、福岡城築城四〇〇年にちなんで、本藤香会として後世に遺こる記念事業を計画していますが、具体的には現在検討にはいっています。

福岡の　今の栄をつくられし
黒田の名こそ　永遠にとどめん
腰折れですが、私の素心です。

●平成１９年度総会行事から●

平成19年度定期総会

本年度の定期総会は五月二十六日（土）、青葉の香る鳥飼八幡宮参集殿で開催されました。恒例の年間行事計画のほかに、本年度の事業として

1. 福岡城築城四〇〇年を記念して「藤香会記念事業」の企画
2. 「光雲神社一〇〇年祭」「小石原焼・光之公三二五年祭」「福岡市博物館開催〈長政と二十四騎展〉」への協力が承認されました。

総会に続いての卓話では福岡市教育委員会文化財整備課の長家伸氏から、「福岡城整備計画について」と題し、「上の橋大手門と下の橋大手門の復旧・復元状況」を中心に、約三〇分間、貴重な説明を聴くことができました。

親睦会は五九名の参加で和やかな交流の場と変わりました。

黒田如水公四〇四回忌ご法要

黒田家始祖・如水公は福岡城に移るまえの一、二年はすでに隠居の身で、太宰府に仮寓しておられましたが、築城が始まると城内の三ノ丸に家宅を構えられました。それから二年余りすぎた慶長九年（一六〇四）三月、病に臥せられ、ついに三月二十日御歳五十九歳でこの世を去られます。

ご法要は黒田家第十六代黒田長高様ご来臨のもと、恒例のとおり、ご命日に崇福禅寺で行われました。導師出仕に先立ち、進行係の木下正本会理事が如水公の太宰府時代の和歌一首をおごそかに唱詠されました。

松梅の末長かれとみどりたつ
山よりつゞく里は福岡

新しく誕生する福岡の将来を夢見る如水公の思いが私たちの胸を打ちます。

読経の中、参席者一人ひとりが如水公の画像を拝覧して焼香をしました。本堂での法要のあと、中島敏行副会長から黒田家のご功績と藤香会の使命についてお話がありました。

そのあと本堂を出て墓前焼香があり、早春の薫風の中でご法要はおわりました。

如水公の胸像お目見え

黒田如水公胸像贈呈式を終って

これまで西日本では見られなかった如水公のブロンズが福岡市総合図書館内の〈こども図書館〉に登場しました。福岡桜ライオンズクラブの寄贈によるもので、製作者は九州大学芸術工学部の知足院美智子助手です。除幕式には関係団体として藤香会からも副会長ほか四人が出席しました。

像は台座も含め一・三メートルで、頭巾をかぶった法体の姿です。出席された福岡市博物館顧問の田坂大蔵氏は「如水公は福岡文化の礎をつくったひとで、こども達に如水公の知性と先見性も伝われば」と解説されました。製作者からは「天下の知将・軍師から一転して、あっさり隠居したその引き際の美しさを作品に込めました」とコメントがありました。

忠之公ご法要

黒田藩第二代藩主・黒田忠之公の三五四回忌法要が、ご命日の二月十二日弘法大師創建の東長寺で営まれました。

東長寺には第三代・光之公、第八代・治高公も祀られています。

十一時から追福の読経、焼香とつづき、ご住職の法話がありました。

ご法話は、黒田家の始祖・如水公、初代藩主・長政公が禅宗の崇福寺に祀られているのに、なぜ忠之公が真言宗の東長寺を望まれたのか、という内容でした。

ご住職はその理由を三つあげられました。

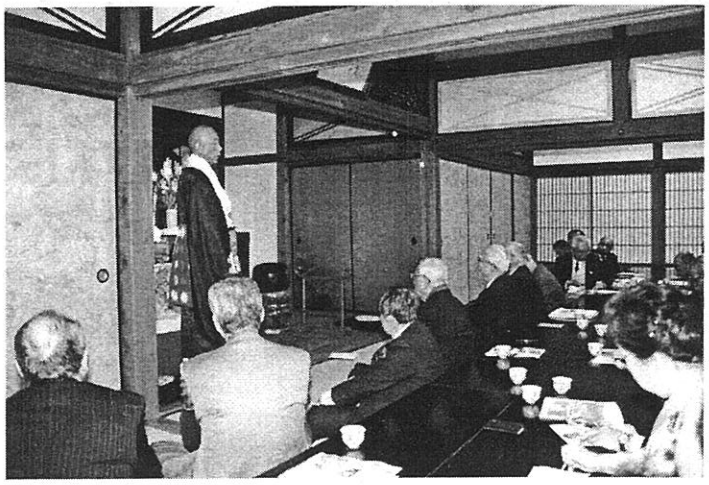
先ず一つ目は、忠之公のお守役が熱心な真言宗の信者であったこと。

二つ目は、ある日、忠之公が東長寺の庭で休んでいらっしゃるとき、目の前にいたネコに、自分に出された料理のタイを投げておやりになると、ネコは汚らわしいものでも見たかのように逃げ出しました。

そこで忠之公は、この寺の僧たちは日ごろ精進潔斎が行き届いている、自分の墓をつくるのはこの寺だ、と決心されたのではないか。（ご住職もここのところは確かではないですが、と笑っておられました）

三つ目は祖父如水公・父長政公と同じ寺では先祖より大きな石塔を建てるわけにはいかない、寺を替えよう、と云うことになったのでは…。

実際、忠之公のお墓の石塔は日本で二番目に大きいとされ、六人の殉死者に付き添われるようにして立っています。



東長寺客殿でのご法要

藤香会昨年度の主な行事とイベント

H18. 4. 6	“城の日”にちなみ、「福岡城市民の会」（以下「市民の会」と略す）が城内で第３回“観桜の宴”を催す
5. 4	福岡城跡で、“博多どんたく”に黒田長高様歓迎式を行う。黒田長久様作詞「博多どんたく行進曲」を発表
5. 20	鳥飼八幡宮で定期総会。卓話・三木隆行氏「黒田家ゆかりの神社仏閣」
7. 8	「市民の会」講演会。講師・力武豊隆氏「幕末の政治ー福岡藩のサムライ」
8. 1	「第57回姫路お城祭り」で、黒田二十四騎播州里帰りパレードあり。本会から騎馬の黒田長高様ほか２名参加
8. 20	会員・中村旭園師、筑前琵琶75年記念祝賀会
9. 2	第２回勉強会。　講師・本会荻野忠行理事演題「福岡城天守と光雲神社」
9. 29	「市民の会」企画＜江戸黒田藩邸めぐり＞、20名参加。東京「江戸城再建を目指す会」が“黒田長高公を囲む会”を開いて一行を歓迎
10. 6	「市民の会」第３回福岡城“観月の宴”を福岡城能楽堂跡で開催
10. 8	播磨黒田武士顕彰会13名が福岡の黒田史跡を訪問、本会副会長ほか２名が案内
10. 21	秋の史跡めぐり＜福岡市内の城下町・西公園周辺＞を実施、55名参加
H19. 1. 3	光雲神社で柳生新影流演武奉納、副会長列座
2. 20	崇福寺開山堂前にあった〝如水公灯籠〟を公の墓前に移設
3. 3	「市民の会」、読売新聞西部本社で＜福岡城を問う！講演会＞を開催
3. 18	崇福寺黒田家墓地清掃。本会木下正理事、桜樹〝ソメイヨシノ〟の若木10本を寄贈し、墓所内北側に植樹

会員クリック②

藤香会での思い出

藤香会理事　平山芳子

今回は平山理事をクリックしました。平山さんは一〇年間会計を務められましたが、この五月会計の役は辞されました。

藤香会に入会させてもらったのは、副会長であった山内勝也先生のお勧めによるものでした。先生にはいろいろとお世話になっていたので、微力ながら私なりに何かお役に立てたら、という思いからでした。そのときの会長は阿部源蔵福岡市長でした。

当時の総会といえば光雲神社の大広間ときまっていたようですが、ご法要の方は今と同じく崇福寺と東長寺で営まれていました。会食は折詰弁当で、費用はその都度集めては支払いをしていました。

ところがある年、警固神社での総会の折、会員の野見山さんからの「通信費として各会員から、年間三〇〇〇円を拠出してもらって会の運営に当てるようにしたら」という提案がはじまりで、現在の年会費制に至っているのです。

行事もご法要のみでなく、＜福岡市内史跡めぐり＞＜バスによる黒田藩関係史跡めぐり＞＜夏期勉強会＞＜忘年会＞へと多彩になってきました。

時代の進展と共にうすれゆく歴史を伝えるため藤香会の発展を祈っています。

歴史講演会＜福岡城を探る＞で市民七〇人が学習

今年三月三日、「福岡城市民の会」主催による福岡城築城四〇〇年を記念する講演会が、福岡市赤坂の〝よみうりプラザ〟で開かれました。

今回の講演会の目玉の一つは、八代市で平成十五年に発掘が終った、麦島城の調査研究の成果が発掘に当たった当事者から発表されたことです。

麦島城は黒田孝高公と共に秀吉に仕え、ともにキリシタン大名としてよく知られている小西行長によって造営されたものです。ところがその麦島城は元和五年（一六一九）に地震で倒壊したため、そのまま地中に埋められていたのです。偶然とはいえ、それが当時のままの城郭の構造と部材を残す貴重な事例となったのです。特に金箔瓦は織豊系城郭の特徴の一つで、福岡城跡から金箔瓦が発見されると福岡城の謎の幾つかも解けてくるのではないかというわけです。

講演会のあと、参加者七〇のうち希望者約四〇名は修復整備中の「下の橋大手門」を中心に城内の見学をしました。

●編集後記●

この「たより」の編集を担当して福岡の見方が変わったような気がします。市内行くところ文化財だらけです。記事の中の史実の確認や調査など、編集作業をすることで思わぬ勉強をさせてもらっています。（平田）